

由被仰云々、下官聞此事、心中所思、先帝(堀河)八歲即帝位、獨以行幸、其後及數年、強不可有、母后要之處、以郁芳門院准母儀、有立后之事、故天道不受、歟今度今上(鳥羽)五歲、獨不可有、御輿中、必有同輿人、然者又必可有、立后也、帝實母早夭、仍此人、尤謂昭穆、已叶母儀、立后、內大臣以下、必有立后由被之事、天之所許、世之所推、誠當其仁、何云非據哉、此旨密々先申、殿下了、

申、○中 廿九日、今夕前齋院令立后宣旨被下、是准母儀、先日令入內御東對也、

〔續世繼三〕大內渡院羽鳥の姫宮、○妹 東宮條、○二の女御にまゐり給、高松院と申御事なり、前齋院とて、いまの上西門院女統子鳥羽皇おはしまし、を御母條、○二にまゐり給、高松院と申御事なり、前齋院とて、

きさき美福門院おはしませば、べちの御母なくともおはしましぬべけれど、いませすこしねんご

ろなる御心にや侍りけん、

〔女院記〕殷富門院亮子後白河院御女、母從三位藤原成子、安德顯德二帝准母儀、保元元年四月十九

日內親王、卜定齋王、壽永元年八月十四日皇后宮、六年廿

坊門院範子高倉院御女、土御門院准母儀、治承二年六月廿七日內親王、卜定賀茂齋院、二年建久五年

八月退下、同六年十月廿一日准三宮、九年十 同九年三月三日皇后宮、二年廿 此日天皇御門即位准母儀

儀、○節

〔皇胤紹運錄〕春華門院昇子後一品皇后、順德院准母、

〔女院記〕安嘉門院邦子後高倉院御女、第二母北白河院、中納言基家卿女、後堀河院准母儀、承久三年

十一月廿五日內親王、十三同年十二月一日皇后宮、年十三此日天

式乾門院、利子後高倉院御女、母北白河院、四條院准母儀、嘉祿二年十一月廿六日內親王、卜定齋王、

天福元年二月五日伊勢ヨリカヘリ、同年六月廿日皇后准母后、

〔女院小傳〕遊義門院始子後宇多后、後二條准母、深草一女、略中弘安八、八十九為皇后宮、十六

〔為親記〕應保元年十二月十六日甲寅、今日無品內親王障子、鳥羽院被成母后之儀、云々、仍可有院號

之由自去比沙汰出來云々、而內親王院號無先規、歟、其間事被問人々云々、可為母儀者、院號可宜之

出家後為准母